令和4年度　学校自己評価書（様式）

下線は前年度評価からの改善点　　児：児童アンケート　保：保護者アンケート　教：教職員自己評価

鈴鹿市立玉垣小学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1．授業改善 ・国語科を中心とした研修の推進（能動的に学習できる児童の育成）と「めあて」「振り返り」の徹底 →実践研究の実施（教100%）， 「めあて」「振り返り」の徹底（教100%） ・学調，みえスタの学力分析結果をもとにした授業改善の取組推進 →学調結果，分析結果を活かした改善策の検討と実践（教100%） 2．基礎学力の向上 ・授業の工夫（児童が楽しみながら）と反復学習等を活用した取組の推進 →「分かりやすい授業を工夫し，基礎学力を身につけているか」（保100%） ・家庭学習，補充学習の推進 →家庭学習の調査　年3回「家で勉強しているか」（児90%以上）， 「家庭で十分に学習しているか」（保90%以上） ・読書指導の充実（朝読による落ち着きのある1日の始まり） →ブックトーク　各学年年1回以上 年間平均読書冊数　低学年65冊以上 中・高学年30冊以上 ・図書を知らせる掲示物や図書だよりの工夫		
	【成果と課題】 ○ 教「授業において『めあて』『まとめ』『ふりかえり』を徹底している。」 肯定的回答94%（昨年度比＋15p）で大きく向上した。 ○ 教「全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し,改善策を検討して実施した。」肯定的回答84%（昨年度比＋6p）で向上した。	○ 普段の授業の中で児童に対する意識付けを徹底していると評価できる。	
	○ 教職員の授業改善や分かりやすい授業づくりの意識向上や実践は進んでいる。 ● 保「学校は分かりやすい授業を工夫し,基礎学力を身につけるようにしている」 肯定的回答89%（昨年度比－3p）で低下した。	○ 保護者評価は3p低下したが，9割近い高い数値であり，教職員の授業改善や意識向上に引き続き取り組み，分かりやすい授業づくりを続けてほしい。	・ 引き続き，ICT機器を活用したり視覚支援に配慮したりなどして，分かりやすい授業づくりを進める。 ・ 基礎学力を身につけさせるために，粘り強く取り組む。
	○ 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックについて，学校全体で自校採点をすることで，「強み」と「弱み」を全体で共有することができ，その「弱み」を自分の担当学年の学習と関連づけて授業改善に生かすことができた。	・ 学年によって強み，弱みは異なり，すぐに効果が出るものではないので，方向性を見失わないようにしてほしい。	
	● 家庭学習について，児「家で勉強している。」の肯定的回答87%（昨年度比－1p），保「子どもは家庭で十分に学習している。」の肯定的回答75%（昨年度比－1p）でともに低下した。	● ほとんどの家庭で家庭学習の時間をとれているようだが，保護者，児童ともに低下していることが気になる。	・ 児童が意欲的に取り組みたくなる課題の工夫を行う。 ・ 家庭学習調査を利用して、自主的に学習に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。
	○ 読書指導について，ブックトークは図書館支援員も活用しながら全学年で実施した。その他にも，図書ボランティアによる読み聞かせを定期的に実施している。		・ 引き続き、図書館支援員や図書ボランティアと連携を取りながら、読書指導に取り組んでいく。

	○ 年間平均　読書冊数（一人当たり） １年生　140冊　　２年生　80冊　　３年生　110冊 ４年生　　60冊　　５年生　70冊　　６年生　　85冊	・ 中古の本を寄付したい地域の方に，協力を呼びかけるのもひとつの方法ではないか。	・ 図書館支援員と協力し，ブックトークの機会を充実させる。 ・ 地域の方から寄贈いただく本を含め，紹介してもらった本や新刊の本、教員や図書館支援員のおすすめの本などを図書館に置く。 ・ 掲示物や図書だよりを充実させ、児童に興味をもたせるなどして、年間読書冊数の増加をめざす。
	○ 朝の読書だけでなく，休み時間や学習の余った時間にも，本を読む姿が見られる。		・ 絵本バックに常に本を入れておくなどして、短い時間でも読書に取り組める環境を作る。
	○ 図書館だよりの発行（年間3回）,ファミリー読書の取組を行った。	○ 親子で一緒に同じ本を読んだり，同じ時間に読書をしたりするのはとても良い取組だと思う。	・ 引き続き、図書館だよりを発行したりファミリー読書に取り組んだりして、家庭で本に触れる機会を作る。
	○ 図書館内に,新刊図書や図書館司書の推薦図書を知らせる掲示物の掲示。		・ 図書館支援員と協力し、掲示物の充実を図る。
ＩＣＴの活用	1．ICT活用による授業改善の推進 ・日々の授業への積極的な活用→*教*100% ・<u>教員の活用差を解消するためのICT校内研修</u>→年1回以上 2．ICT活用による業務改善の推進 ・クロームブック等を活かした業務時間の削減→*教*100% 【成果と課題】	● ICTの活用は大変効果的なようだが，児童の具体的な反応や感想や状況も知りたい。	・ 児童アンケート結果等,本校の取組を学校通信等で家庭・地域へ発信していく。
	○ 授業の展開上使用しない通級などを除き，ほとんどの教室でICTが活用された。 教「日々の授業でICTを活用したか」の肯定的回答８９％（昨年度比±０）。	○ 授業参観では，多くの学級でICTを活用していた。効率より効果的な活用をめざしてほしい。	・ 市が示している「情報教育推進体系表」をもとに,系統的な指導を行っていく。 ・ 児童の現状を踏まえ，デジタルとアナログをバランスよく取り入れた効果的な授業を推進していく。
	○ ICTの研修会の実施（年２回）。 定期的に来校するICT支援員を効果的に活用し，教職員のICT活用力が高まっている。	● 活用していないと回答した１割についても推進していけると良い。	・ 授業でのICT活用推進に向け,教職員のニーズに対応した研修会をICT支援員と連携して継続して実施する。
	○ 職員会議等資料のペーパーレス化による,印刷や資料綴じの時間の削減。 ● 教職員の時間外勤務は，４月から１月末までで，平均１人当たり30.85時間（昨年度比+1.97時間）。全体の時間外勤務は削減されていない。	○ 今後もICT活用を進めてほしい。	・ 業務における効果的なICT活用を継続するとともに，教職員の働き方改革については，行事の見直し，会議等の持ち方なども含めて，総合的に取り組んでいく。
	○ 児童の検温，欠席等連絡のグーグルフォームの活用，学校から欠席者への連絡のClassroomの活用による，確認・連絡に要する時間の削減。		

不登校	1．不登校の未然防止・早期発見・即時対応できる組織の充実 ・欠席情報，児童観察・家庭訪問等の情報共有→教100% ・担任と児童支援担当，養護教諭，SC，SLS，管理職，関係機関との連携充実→教100% ・対象児童の居場所作りの検討 【成果と課題】 ○ 職員室の欠席者一覧により，欠席状況を把握し，共有することができた。 ○ 気になる児童の様子をデータ化して共有するとともに，家庭訪問・保護者対応の内容などを関係職員や関係機関と情報共有・相談しながら進めることができた。 ● 1月末現在，30日以上欠席の児童は16人。 担任が中心となって，保健室や関係機関とも連携しながら，対応している。 長期欠席している児童には，定期的に担任が家庭訪問している。 ○ ケース会議などで，一人ひとりに応じた支援を検討し，支援員の配置も含め，居場所づくりにつとめた。 ○ 空き時間の教員でヘルプ表を組み，全職員での支援体制の構築に努めた。	・ 以前はお楽しみ会などがあったが，コロナ禍をふまえ，今はどのように子どもの楽しみの時間を工夫しているのか。	・ 日々のなかまづくり，居場所づくり，授業づくりなどを含めて，明日も行きたい学校づくりを進める。 ・ お楽しみ会などの時間も，コロナ対策をしながら，工夫して取り組んでいる。 ・ 来年度も、各学年の児童の様子・気になる児童の交流はこまめに行うようにする。教室離脱の児童など、全体で見守っていく児童については、写真付きで紹介していく。 ・ 今後も，外部関係機関や中学校とも連携をとりながら対応する。 ・ SLSについては、毎週時間割を組んでいるので、その都度必要なクラス・児童に対応できるよう，効果的に活用する。 ・ ヘルプ表などを活用し、学校全体・全職員で気になる児童への対応ができるようにしていく。 ・ 支援が必要な児童はこだわりが強い児童も多いので、できるだけ同じ教員が対応・複数対応できるようにしたい。 ・ 学年での共通理解・管理職への報告は、来年度もこまめに行っていくようにする。
地域連携	1．地域との協働による活動の展開 ・学校運営協議会による充実した熟議の推進（「家庭学習の定着・時間増」，「家庭におけるゲーム・スマホ使用時間の減少」を協議） ・学習支援ボランティアの充実→各学年年5回以上 2．安全・安心の学校づくりの推進 ・児童の安全・安心を中軸とした地域や関係機関との連携強化 →PTA・地域による登下校見守り（毎日），防災・防犯訓練年2回， 「子どもを守る家」の点検年1回 通学路危険個所点検年1回 ・全職員による自己評価及び学校関係者評価の実施 →教100% 3．学校運営協議会の協議内容等の発信 →学校だよりや学校HPでの発信100% 【成果と課題】 ○ 学校運営協議会は年6回実施。あいさつ，家庭学習，スクリーンタイムの削減，ネットモラル，校区の危険箇所などについて熟議を重ねた。	○ 2学期の授業参観で児童の様子を見ることができた。次年度も参観を継続してほしい。	・ 学校運営協議会委員の方に，授業参観など日々の子どもの様子を見ていただく機会を，継続して設定する。

	○ 学習支援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは週当たり延べ60人の方の協力を得た。 ● 予定の変更が難しく，活用しきれない面もあった。		・ 1年の見通しを持ち学習ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを活用できるようにする。
	○ 安心・安全みまもり隊による登下校の見守り（毎日）を実施。 PTA本部役員・地区委員による下校指導（年7回）を実施。	○ 地域の方の支えがあっての安全だと思う。 ○ PTAやまちづくり協議会，自治会などと連携して取組を進めてほしい。	
	○ 避難訓練(地震,火災)を実施できた（各学期1回）。 自他の安全を確保できる能力 及び 非常事態に際して,適切に判断し,対処できる能力・態度を身につけることができた。		
	● 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，全校一斉訓練が未実施。		・ 来年度は全校一斉訓練の実施を予定している。
	○ 不審者防犯のための職員研修を実施できた（年1回）。 不審者が侵入した際の安全な避難体制について考えることができた。 また，図上訓練とさすまたの実技訓練を行った。 ● 不審者防犯訓練の実施訓練を行うことができなかった。	・ さすまたを各学年（各フロア）に1本ずつ備えられると良い。	・ 来年度は職員の実地訓練，また子どもがいる時間の実地訓練を行っていく予定。 ・ さすまたは新式のものも発売されていることも踏まえ，要望していきたい。
地域連携	○ 「引き渡し訓練」を実施し(年1回)，緊急時における対応を確認することができた。 今年度の訓練では，引渡しの時間を決めて，迎えのない児童は歩いて下校させた。 その際，運動場に地区ごとに集め，教職員が集合場所まで引率した。 ● 「引き渡し訓練」に係る事前の保護者への周知等により，訓練開始前にお迎えにくるなど実効的訓練面での課題が残った。	・ 引渡しで保護者が来られない児童への対応はどうしているのか。	・ 実際の引き渡しでは迎えが来るまで学校で預かる。
	○ PTA地区委員による通学路を含む校区危険箇所点検及びパンダシール等の貼替の実施。	・ 年に1ヶ所ずつでも危険箇所の改善に向けて働きかけていけるとよい。	・ 引き続き，PTA及び関連機関と連携しながら，危険箇所の確認や報告，改善に向けた要望を行う。
	○ 通団会を年2回実施。危険個所の共有を含めて指導を行うことができた。		
	○ 学校HPでは学校だより，学校運営協議会報告を中心に発信をすることができた。	● 多忙の中更新するのは，手間がかかると思うが，学校発信の手段として引き続き役立ててほしい。更新したらお知らせに載せるなどするとよい。 ● 行事予定が更新されていない。	・ 来年度は行事予定を滞りなく更新していく。

豊かな心の育成	1．いじめが生まれにくい学校づくり ・仲間づくりを通した人権教育の推進 →「学校で友達と仲良く生活できているか」 *児*90%以上 「お子さんの交友関係は良いと考えるか」 *保*90%以上 「一人ひとりを大切にした教育を行っているか」*保*90%以上 「一人ひとりの良さを認め，自己肯定感を高める取組をする」 教100% ・担任，相担，養護，児童支援，管理職，SC，関係機関等とも連携した相談体制・見守り体制の構築 ・あいさつ運動の推進（気持ちの良いあいさつが増える取組や指導） →「学校であいさつをしているか」 *児*95%以上 「お子さんは家庭・地域であいさつをしているか」 *保*90%以上 ・多文化共生教育の推進 →各学年の取組　年1回以上 国際週間への参加　全校児童70%以上 JSL保護者会　年1回　保護者参加率30%以上 2．特別支援教育の推進 ・特別支援教育の視点を活かした「分かりやすい」授業づくり →教100% ・支援会議，ケース会議，教育相談の充実 ・交流学級担任会，特別支援教育に関わる研修会の実施 →各年1回以上 【成果と課題】		
	○ 友だちとの交友関係については，肯定的回答が児97%，保94%である。	○ 仲間づくりを通した人権教育の成果だと評価できる。	・ 今後も仲間をつなぐという視点をもち、仲間つくりの取組をより推進していきたい。
	○「一人ひとりを大切にした教育を行っているか」について，肯定的回答が保90%，教100%である。		・ 自己肯定感を高める取組を引き続き進めていくとともに、教員間で実践の交流をする機会を持っていきたい。
	○ なかまづくりのレポート研修や，「いじめ」に係るアンケート調査を実施（毎学期1回）し現状把握をするとともに，教職員間及び保護者，関係機関と情報共有を行い，いじめ防止及び課題解決に取り組んだ。		・ 仲間つくりレポート研修を通して、子どもの見方とらえ方の視点を大切にし、より実践力が向上するレポート研修にしていきたい。
	○ JSL保護者会は4月のみ開催した。参加率100% ● JSLバンドスケールの判定が前年度まで7であっても，学年が大きくなると，難しい言葉や抽象的な表現が出てくることで，理解が難しくなる場合もあった。		・ JSLバンドスケールは，教師が児童の現状を再確認するという意味でも、年2回の判定会議の設定を継続したい。 ・ 多文化共生教育について、1年生から6年生までを見通した系統的な取組となるように取組内容の検討を進めたい。
	○ あいさつについては，肯定的回答が児94%。生活委員会が中心となって，月目標にもあいさつを設定し，あいさつ運動に取り組んだ。 ● あいさつについて，保護者は82%と低く昨年度比-6pである。地域でのあいさつの実態に課題が残る。あいさつ運動が校内のみの活動となり，学校外にまで広げることができなかった。 ● 自らあいさつすることができる児童が少ない。	● 目標に届かなかったのは残念だが，継続が大切。マスクで聞こえづらいのは確かである。子どもたちからあいさつされると嬉しい。学校に近づくほど，あいさつに元気がある。	・ 自らあいさつができる児童を増やしていくように学級，学年等で取り組む。

豊かな心の育成	○ 特別支援教育の視点を活かした「分かりやすい授業づくり」については，肯定的回答が教100%（昨年度比＋5p） ○ 支援会議，ケース会議は年間60回，教育相談29件の実績。 ● 年度初めに、支援会議・ケース会議への流れを提案したが、円滑な実施ができない事案もあった。 ○ 交流学級担任会は,職員会議に拡大して3回にわたり実施し，児童の特性や支援について共有することができた。 ○ 夏の特別支援教育研修で，教材・教具をたくさん紹介してもらったため、2学期からの授業に生かすことができた。	・ どの子にも，授業だけでなく分かりやすいことをめざして，今後も進めてほしい。 ・ 特別支援に関わる研修会は，少なくとも学期に1回以上は必要ではないか。	・ どの子にも「分かりやすい授業」を意識して取り組んでいく。 ・ 学年での情報共有を密にし，必要に応じて早めにケース会議をもてるよう，支援部所属の教員を中心に，学年で実施する体制をつくる。 ・ 来年度も，教職員のニーズを捉えながら，専門的知見をもつ方を講師に招聘し，研修会を実施したい。
健康でたくましく生きる力の育成	1．体育・保健指導の充実 ・<u>体を動かす楽しさが味わえる運動や取組の実施</u> ・体力テストの実施→結果の県平均以上 ・養護教諭・栄養教諭と連携した健康教育・食育の推進 →各学年年1回以上 ・命・環境の大切さを学ぶ機会の確保→各学年年1回以上 2．キャリア教育の充実 ・すずか夢工房や地域人材活用の授業実践（<u>「出会い学習」の充実</u>） →各学年年1回以上 ・キャリア・パスポートの作成→各学年年1回以上 ・異学年交流や児童会活動等の推進→各学年年1回以上 【成果と課題】 ○ なわとび記録会を年２回前期と後期で実施。休み時間に縄跳びや大縄をする児童が増えている。１年を通して，なわとびに取り組む姿が見られた。 また，なわとび記録カードにより，１年間での伸びを実感することができた。 ○ 体力テストは5年生で全種目実施した。男女とも長座体前屈，反復横跳び，ソフトボール投げは全校平均を上回り，男子握力も全国平均を上回っている。 ○ 前回の結果と比べて，男女ともに反復横跳びの平均が上がった。（男子39.24→40.83,女子37.79→38.82）男子は,握力,50m走,ソフトボール投げでは前回より平均が上がった。 ● 体を動かすことは好きだが，女子は体育の授業が楽しいという回答は全国（59.3%）県（61.4%）よりも下回り，56.4%にとどまった。 ○ ２・３学期の発育測定後に養護教諭による指導を行なった。（年2回） ○ 各学年2回以上の栄養教諭と担任による食育の授業を行った。 ○ すずか夢工房は特別支援学級で2回，また,地域人材活用の授業実践は各学年で1回以上実施することができた。 「出会い学習」を柱に人権総合学習を進めている。コロナで制限があったものの,昨年度より外部の方との出会い学習の場を設けることができた。特に体験的な学習は子どもたちの良い刺激となり,新しい学びにつながったと考える。 ○ キャリアパスポートは学年末に各学年で実施し，本年度の生活について見つめ直した。 ○ ペア学年による掃除（1・6年，2・4年，3・5年）やクラブ（4～6年）,委員会活動（5・6年）で異学年交流を実施した。 ● 学校全体での交流は，新型コロナウイルス感染症防止の観点から実施を見送った。		・ 運動のコツやポイントを伝えて，授業内にできるようになるようサポートする。 ・ 俊敏性を鍛えられるなわとびを続けていく。 ・ 持久走をしていないことで全身持久力が低下していると考えられる。感染症対策をして機会を増やすようにしていきたい。 ・ 地域の方の生き方や地域をよりよくしようとする私たちの町の姿勢などからの学びを今後も大切にしていきたい。 ・ 1年を振り返るだけではなく、毎年記入しているものと見比べ自分の成長をより感じられる取組にしていきたい。 ・ 異学年交流は，新型コロナウイルス感染症の動向等にも配慮しながら，実施を検討する。